

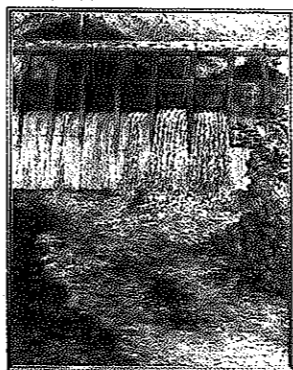
市長賞受賞者 作品紹介

六月六日から十一日まで、白根学習館で第29回白根市美術展覧会が開かれました。期間中は一千三百人が訪れ、感性あふれる力作に見入っていました。日本画、洋画、版画、書道、写真、彫塑、美術工芸の七部門二百三十七点の出品作品の中から、市長賞を受賞した五点の作品と受賞者の皆さんを紹介します。

日本画

放流のダム

(鹿瀬の発電所にて)



薄田 弘さん
(四ツ興野)

薄田さんが日本画を始めたのは、定年退職後の五年前、公民館の市民文化講座の受講がきっかけでした。現在は日本画サークル「萌黄会」に入会し、会の皆さんと楽しみながら絵を描いています。

「去年の春に鹿瀬のダムに行き、写生したものです。ダムから落下する激流水と、水面が岩に激突する波に感動し描きました。流水の力強さをダイナミックに表現しようとしたが難しく、納得する表現ができませんでした」と、作品を語っていました。

美術工芸

紺の刻



関屋笑美子さん
(諏訪木7)

「自分の作った焼き物で、料理を出したい、花を生きたい」、こんな思いから陶芸教室に通い始めたのが十二年前。今ではこの思いもかなって、すてきな焼き物で家飾が飾られています。

初めての市展出品で見事、市長賞を受賞した関屋さんは、「イメージ通りの色に仕上がりました。もう少し高さが欲しかったです」と作品を振り返ります。「市展に出品して、いろいろな人との出会いもあり、大変勉強になりました」とこやかに話してくれました。

洋画

過日Ⅱ



本間芳博さん
(湯東村)

「妻の母親を、いろいろと思い出しながら描きました」。他界されたお母さんへの思いが、絵の中に込められた本間さんの作品です。

本間さんが洋画を始めたのは、知人から画材道具一式を譲り受けたのがきっかけ。今では市展のほか、県展、芸展にも出品し、数々の入選、入賞も果たしています。

「審査員の皆さんに作品を認めてもらいました。この市長賞受賞を心よりうれしく思います」と喜びを語ってくれました。

写真

太陽の華

(津南町にて)



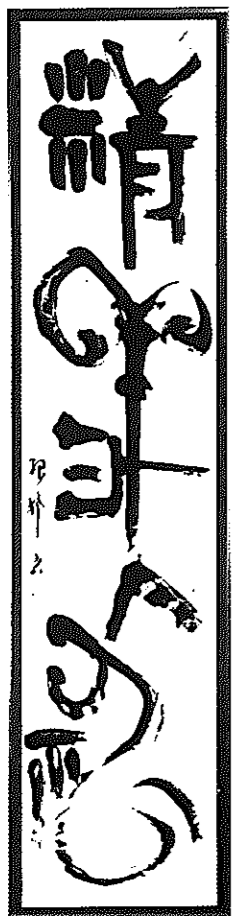
山宮繁雄さん
(水道町5)

「電鉄が廃線になるときに撮った写真をコンテストに応募し、賞を取りました。これが、写真始めるきっかけになりました」と話す山宮さん。その傍らには、汽車や夕日の写真が並びます。

作品は去年の暑い夏の日、一時間をかけて撮影したものです。「空の中の白い線(雲)を入れたくてカメラを構えました。狙ったとおり撮ることができました。写真でストレスを解消しています」と、山宮さんは笑顔で話してくれました。

書道

精義入神



皆川緑邦さん
(味方村)

「思いっきり書きました。とても気に入っている作品です」と受賞作品を語る皆川さん。「金文」という

書体で書かれた力作は、一カ月の練習を重ねて完成しました。

十三年前、お子さんが書道を習う時期と同時に書を始め、毎年市展に出品。これまでに議長賞など数々の入賞を果たしています。

「書いている時は、周りが気にならないくらい集中力が高まります。文字を書くのは一発勝負ですね」と話してくれました。